

授業科目 福祉用具演習 I (移動機器)

【担当教員名】		対象学年	1	対象学科	義肢
高橋 素彦、加島 守		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	30
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	○			
【概要・一般目標：GIO】					
<p>移動機器についての理解を深め、利用者に適した移動機器の選択をするために機能評価、用具の操作方法を学ぶ。また代表的な移動機器である車いすの理解を深めるため、評価、適合について学び、更に分解、組み立て、調整について学ぶ。</p> <p>利用者のQOLを高めるために以下の事柄を学ぶ：</p> <ul style="list-style-type: none"> - 移動福祉機器の対象者・種類・機能・構造・工学的基礎・技術変遷・今後の動向 - 車いすの適合性・安全性 - 障害の種類と車いす - 昇降装置・介護リフト <p>また、専門用語について学ぶ。</p>					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 移動機器の種類、定義、役割について説明できる。 2. 利用者に適した移動機器を選択できる。 3. 移動機器（車いす）の工学的基礎・構造が説明できる。 4. 車いすの分解組立、調整ができる。 5. 移動機器の選択、適合に必要な利用者の姿勢の評価ができる。 6. 移乗機器と選択、動作の評価ができる。 					
回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員		
1	移動機器概論	1	講義		
2	基本姿勢	2.5	講義・演習		
3	姿勢評価	2.5	講義・演習		
4	移動機器の工学的基礎	3	講義および演習		
5	移動機器の選択、操作方法	2	講義・演習		
6	移動機器の採寸と適合・評価・介助	2.5	講義・演習		
7	車いすメンテナンスの基礎知識	4	実習		
8	車いすメンテナンスの基礎知識	4	実習		
9	車いすの分解	2	実習		
10	車いすの分解	4	講義と質疑応答、演習		
11	車いすの組立	4	講義と質疑応答、演習		
12	車いすの組立	4	講義と質疑応答、演習		
13	車いすの調整	4	講義と質疑応答、演習		
14	電動車いす	1	講義・演習		
15	移乗	6	講義・演習		
注：9, 10, 11, 12「車いすの分解・組立」3限～5限の連続時間とする					
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)					
参考書	車いすのヒューマンデザイン	田中 理、大鍋 寿一 監訳	医学書院	2000・4,500円＋税	
	Introduction to Rehabilitation Engineering and Assistive Technology	R. A. Cooper、H. Ohnabe、D. A. Hobson	Taylor and francis	2006・6,700円＋税	
	福祉技術入門	後藤 芳一、足立 芳寛	Ohmsha	1998・4,515円＋税	
その他の資料	プリント				
【評価方法】		【履修上の留意点】			
最終試験 80%、小テスト 10%、レポート 10%		原則、授業の1/3を欠席した者は科目評価資格を失うものとする。また欠席1回につき-5点、遅刻1回につき-2点、遅刻2回につき-5点を最終評価から減点する。			